

英語化が推し進められるこの時代に

昨今では所謂グローバル化によって英語教育の重要性が強く主張されるようになりました。これは短期間の間に急速に発達したもので、今や幼稚園の頃から英会話の塾に通わせるという家庭も増えていると聞きます。が、自分が東京で塾バイトをしていて、一つ気がついたことがあります。「あれ?もしや日本語の運用能力があまりに欠如している?」自分も人のことを言えた立場ではありませんが、さすがにこれでは英語学習にも影響が出るだろう・・・とってしまうパターンが多かったのです。

というわけで前置きが長くなってしまったのですが、本題に入ろうと思います。自分が日本語を再注目させるキーとして重視しているもの、それは、ダジャレです。

え?ダジャレ?ふざけているの?と思ったそのあなた、固定観念に縛られすぎです。おそらくその固定観念とは、親父ギャグ、という別称に伴い、「ダジャレ=中年のおっさんが言うような場を白けさせる低俗な笑い」といったところではないでしょうか。とんでもありません。よく考えてみてください。高尚な言葉遊びではありませんか。少し考察を加えてみましょう。

ダジャレには概して三つの要素があります。即時適応性、押韻性、共感性。それぞれの言わんとしていることはすぐおわかり頂けると思いますが、一言加えさせてください。

まず、即時適応性です。基本的にダジャレには消費期限があります。正確に言うとダジャレを投入できる空気感に期限があります。非常に簡単な例で考えてみましょう。近所のおばちゃんが「昨日、干してた布団が落ちちゃってねえ」と言ったとします。これに対して話題が次に移ろうとしたときに「布団が吹っ飛んだんですか・・・」と言ってしまうとこれはアウトですね。会話によって構成される場というのは一定でない電場や磁場のように時間に依存して変動していきますから、タイミングを間違えると無駄に大きなエネルギーを消費するだけでなくスムーズな流れを食い止めることにもなりかねません。それからテンポだけでなく気遣いも大事な要素です。「うちのペットが癌で・・・」と言っている友達に対し「ガン」とか言ってしまうとここで友情が終わります。日本語の前に道德の勉強は大事です。

次に、押韻性です。いわばダジャレの構成そのものです。一言で言うなれば韻を踏みましようということなのですが、踏んでいる部分が長く、無駄な部分が少ないほど、人には完成度が高い作品に思えます。「帰省するのを規制する」よりは「帰省を規制」の方が簡潔ですし、「棋聖が帰省を規制」とすると少々深みを増したように感じますよね。また、品詞を横断している方が人間には面白く感じます。先ほどの例は全て名詞で作りましたが、ここに形容詞や副詞、助詞を加えたもので構成すると良いですよということです。皆さん謎解きはお

好きですね？ダジャレがつまらないものとして認識される原因の一つとして、あまりに構造が単純でわかりやすいことが挙げられるのではないかと自分は推測しています。そこで韻のかぶりを上手く溶け込ませてやることで、発見した際の喜びや楽しさを味わってもらえるのではと思います。有名な例なら、「小学生、生姜くせえ」とかです。「小学生」という名詞に対して、「生姜」という名詞と「くさい」という形容詞、その訛りを加えているため、おおと感じますよね。時代のものとしては「コロナなんてイチコロな」が有名ですかね。

最後は共感性です。共感してもらえる内容であれば、ダジャレを発言するだけの甲斐があります。自分はそう思っています。またそれは聞き手に妙なツッコミをさせないようにしたいということでもあります。例えば、「梅はうめ～」と言ってしまうと、梅干しならともかく梅を直接味わうことってあるの？とツッコミが入るかもしれません。ちなみにこれは実例です。先ほどの小学生のダジャレもそうですが、内容の現実的整合性がどうしても気になる方は数多くいらっしゃるようです。複数名から指摘をいただいたことがあるので、それが一般感覚なのでしょう。よって改良の必要があります。梅の例なら、「梅酒はうめ～しゅね」とすることが出来ます。これなら心配いりません。

以上のように簡単に噛み砕いて解釈してみると、たったこれだけを考慮するだけで相当大変だということがわかります。「タイミングを逃さず」、「上手く韻を踏むようにして」、「共感を生む作品を披露する」ことを実行するために必要なのは、語彙力・脳内検索力・状況把握力などなど様々ですが、これが所謂「国語力」たる総称に該当するものではないでしょうか。意識してダジャレを生み出そうとする姿勢にこそ、まず母国語である日本語からの言語運用能力が鍛える手掛かりが隠されているのではないのでしょうか。詳しく考察を行うと分量が増える上に、自分でも上手く言語化できない部分がありますので、このあたりに留めておきます。

ここまで長らくお付き合いくださった皆さん、心より感謝申し上げます。まだまだ未熟者故、これを一つの機会に自らの能力向上に一層励んで参りたいと思います。

また会うのは、どう(Cu)?